

# 地域間調整で 目標面積を達成

平成9年度の白根市の生産調整の実施状況がまとまりました。その結果、約八十ヘクタールが未達成で、地域間調整を実施してようやく目標面積に達するという厳しい状況でした。



今年度、白根市が県から配分を受けた転作等目標面積は、八百二・八二ヘクタール。これは市内水田の二三・五パーセントに相当します。

八月初旬の段階では、目標面積の九〇パーセントにあたる七百二十二・八九ヘクタールで生産調整が実施され、残りの約八十ヘクタールが未達成となっていました。新潟県全体の生産調整の実施状況は九九パーセントと、ほぼ目標面積に達しており、八月の時点で未達成だったのは白根市と豊栄市の二つだけでした。

白根市内では、三十三集落、農業者二百四十三人が未達成で、一部の大規模農家と小規模農家で協力が得られないケースがあります。

目標面積に達しない場合、未達成面積で取れる米に相当する出荷米が優先的に調整保管の対象となるのははじめ、国の補助事業などが採択されない、来年度以降の土地改良事業などの公共事業の推進に支障をきたすなどといった不利

## 平成9年度 新生産調整推進対策実施状況

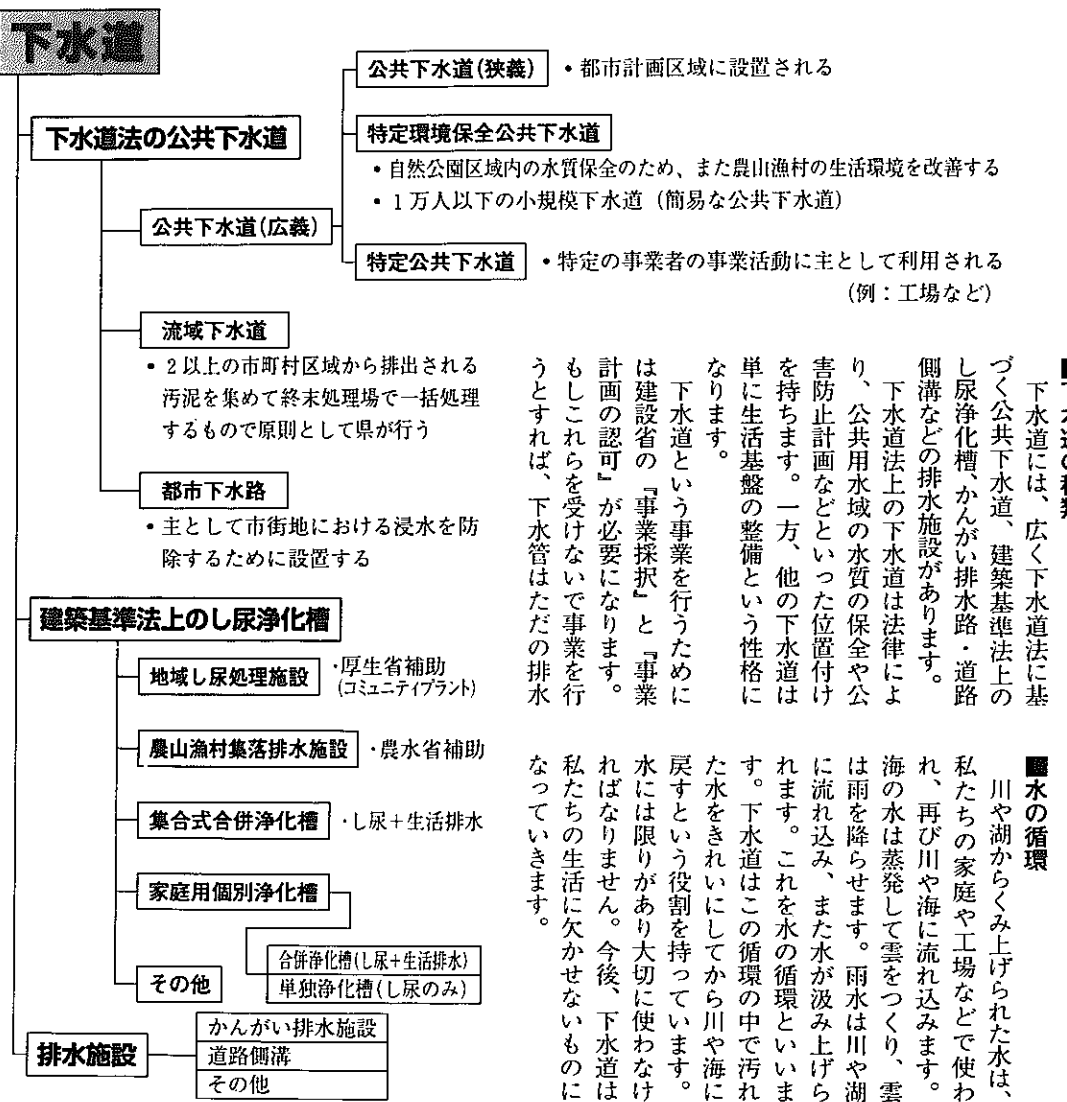
7月末現在 (単位:アール, %)

地区	目標面積 (市配分値)	実施面積 (県ガイドライン)	過不足	達成率%
新飯田	929.8	971.5	41.7	104.5
庄瀬	14,051.6	12,977.8	-1,073.8	92.4
茨曾根	4,702.8	4,589.5	-113.3	97.6
小林	12,972.3	9,924.0	-3,048.3	76.5
白根	7,500.7	6,734.8	-765.9	89.8
白井	9,436.6	6,752.6	-2,684.0	71.6
大郷	7,456.1	6,966.7	-489.4	93.4
根岸	13,947.3	13,836.1	-111.2	99.2
鷺巻	10,188.1	8,597.9	-1,590.2	84.4
合計	81,185.3	71,350.9	-9,834.4	87.9

・目標面積(県配分値)・・・80,281.74アール(A)  
 ・生産調整実施面積(県配分値)・・・71,350.9アール  
 +)公共かい廃(農地転用分)・・・938.02アール  
 生産調整面積合計 = 72,288.92アール(B)  
 達成率(B)/(A)=90% 不足面積=7,992.82アール

## 一シリーズ 白根市 下水道元年

# 下水道には いろいろな種類があります



**■下水道の種類**  
 下水道には、広く下水道法に基づき公共下水道、建築基準法上のし尿浄化槽、かんがい排水路・道路側溝などの排水施設があります。下水道法上の下水道は法律により、公共用水域の水質の保全や公害防止計画などといった位置付けを持ちます。一方、他の下水道は単に生活基盤の整備という性格になります。

下水道という事業を行うためには建設省の「事業採択」と「事業計画の認可」が必要になります。もしこれらを受けないで事業を行うとすれば、下水管はただの排水

**■水の循環**  
 川や湖からくみ上げられた水は、私たちの家庭や工場などで使われ、再び川や海に流れ込みます。海の水は蒸発して雲をつくり、雲は雨を降らせます。雨水は川や湖に流れ込み、また水が汲み上げられます。これを水の循環といえます。下水道はこの循環の中で汚れた水をきれいにしてから川や海に戻すという役割を持っています。水には限りがあり大切に使用しなければなりません。今後、下水道は私たちの生活に欠かせないものになっていきます。

路、処理施設は浄化槽という位置付けにしかありません。今年から始まる白根市の下水道事業は市内全域を公共下水道事業として整備することになります。

## 市民が情報発信できる場に

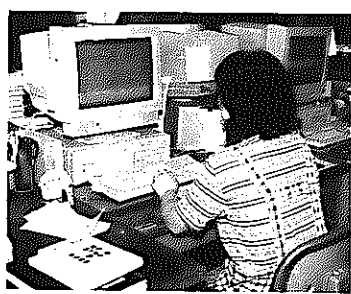
生涯学習センターについて竹内市長は「共有できる情報の発信源、例えば各種市民団体の情報や周辺市町村の情報などを得られるような場所」と語り、市民検討委員会の提言の中にもパソコンを扱うCPU室が加えられています。今回は生涯学習センターにおけるコンピュータシステムについて考えてみましょう。

### ■生涯学習の道具

コンピュータ歴二十年以上という和泉徹さん(桜町2)は生涯学習とコンピュータについては「かつてコンピュータはその操作を楽しむものだったが、今は生活していくための道具にすぎなくなりました。生涯学習というのなら、趣味を持った人がその趣味のために使うものになった」と語ります。

いろいろな情報を引き出せること

図書情報、市民グループの情報、広域の催し物情報など、さまざまな情報を検索することで市民の生涯学習の幅が広がります。生涯学習センターについて和泉さんは「市民が手軽に情報発信できるような環境整備をしてほしい。例えばサーバー機(注)を一台置いて、その一部を市民が自由に使えるとかね」と提案します。そういった環境整備には市民の力も活用すべきと和泉さん。「市民の中にはコンピュータに詳しい人もたくさんいる。そういう人のアイデアを借りながら進めていけば、素晴らしいシステムができると思うんですよ」と期待を込めました。



▲市立図書館では県立図書館とのオンライン化をにらんで蔵書データの入力が始まっている。

注・サーバー  
 ネットワークで利用される通信・印刷などの機能を集中して管理・提供する装置。